

GS04-7 薬剤師が参画した「せん妄対策チーム」介入の有用性 ～せん妄ハイリスク薬管理による予防対策の効果～

○本郷 志帆¹, 村川 公央², 渡邊 沙織¹, 四宮 一昭¹, 北村 佳久^{1,2}, 千堂 年昭²

¹岡山大院薬, ²岡山大病院薬

【目的】術後せん妄の発症は治療期間延長、家族・医療従事者の疲弊、医療コスト増大に繋がり、周術期管理での大きな問題となっている。岡山大学病院（以下、当院）では 2012 年 1 月より、術後せん妄発症予防のため、せん妄対策チーム（以下、D-mac）を始動させ、術前からハイリスク患者を同定し薬剤師を含む多職種が連携して、せん妄発症予防に取り組んでいる。そこで本研究では、D-mac における薬剤師の関わりとその介入の有用性を検証した。【方法】調査は 2011 年と 2012 年の 2 年間で、D-mac 介入の基準である (1)70 歳以上、(2)頭部疾患既往、(3)せん妄既往、(4)認知機能低下、(5)アルコール多飲歴の条件に一つでも該当するせん妄発症ハイリスク患者を対象とした。また、せん妄発症の有無・患者背景等の情報は、電子カルテより後方視的に調査・解析した。【結果】D-mac の介入により、肺癌患者における術後せん妄発症患者の割合は有意に減少した。また、75 歳以上の高齢患者群、ハイリスク因子該当数の多い患者群において D-mac 介入の有用性がより大きいことが明らかとなった。さらに、せん妄ハイリスク薬の一つである「ベンゾジアゼピン受容体作動薬」の手術後使用件数が、D-mac 介入により有意に減少した。【考察】以上の結果より、術後せん妄発症予防に対する D-mac 介入の有用性が明らかとなった。これには、せん妄ハイリスク薬等の薬剤管理の効果が寄与していると考えられ、術後せん妄発症予防における積極的な介入対策の重要性が再確認された。